

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム サンパーク笑う門（そらユニット）

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100048		
法人名	株式会社 サンメディカル		
事業所名	グループホーム サンパーク笑う門（そらユニット）		
所在地	〒020-0823 岩手県盛岡市門1丁目15-27		
自己評価作成日	令和5年12月22日	評価結果市町村受理日	令和6年3月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりとの関わりを大切に、感謝の気持ちを言葉で伝え、ゆったりと笑って過ごせるよう支援している。弊社サンメディカルは「その人のやりたいを叶える」と、社内ビジョンを掲げ、利用者様やご家族様、社員が共に幸せになれるよう取り組んでいる。福祉用具のレンタル、販売をしており、ご利用者様の生活状況に合わせた福祉用具、衛生用品の提供ができる。健康管理では口腔ケアや排便コントロールに力を入れている。食事については食量好みに応じ柔軟に対応している。水分チェックを行い好みのものを用意飲んでいただいている。すぐそばに大きな公園もあり静かな住宅地という事もあり、散歩に出掛けたり、近所の方と会話する機会もある。ホーム前の畑では野菜を育て収穫を楽しみ、一緒に調理を行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事務所は閑静な住宅地にあり、隣接して同法人の有料老人ホームやデイサービスの事業所がある。理念に基づき、より信頼される施設を目指し四半期ごとに社内研修を行い、目標の達成度の確認と振り返りを行っている。地域住民が野菜の差し入れに立ち寄りなど、開設以来、地域との関わりを大切に、地域住民が立ち寄りやすい雰囲気醸成に努めている。畑で利用者や育てた野菜や地域の方からいただいた野菜を活用して家庭的な料理を提供することを大切にするとともに、利用者ができることで役割を持てるよう丁寧に支援している。一方で外国人技能実習生の受け入れや介護機器を活用するなど、介護負担軽減と職員が働きやすい職場づくりに努め、管理者は、職員が楽しく働く事により、利用者の安心感が得られ笑顔が見られるとしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年1月16日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中に地域・家族とともに支援したいとしている。職員間で理念を確認している。	施設理念に基づき、3年ごとに目指す姿を「より信頼される施設」とし、四半期ごとに社内ビジョン研修に取り組んでいる。「だいち」と「そら」の二つのユニットに分かれているが、一つのグループホームとして共通の行動計画・行動成果・問題点を皆で築き上げるための話し合いを重ねている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板や会報をいただき、町内の行事(町内清掃・資源回収)に参加している。古新聞や野菜を頂いたり、町内の訪問理容を利用している。	開所当初より回覧板が廻ってきている。地域内の情報を得て行事等にも参加していたが、現在は感染症防止のため行事の参加は休止している。コロナ禍で利用者も寂しい思いもしたが、今夏は近くの公園を散歩し近くの住民の方と挨拶を交わしたり、野菜などを届けていただいたり、介護についての相談を受けたりと、事業所は地域の一員として地域の方々と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のスーパー等に一諸に出掛けている。散歩の時に声を掛けていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居状況、健康状態、研修、地域交流の報告をしている。	運営推進会議は、町内会長、民生委員、地域住民、薬局薬剤師、家族代表で構成され、8月から対面で開催している。事業所の運営や利用者の様子について報告し、委員から意見を得ている。利用者代表の参加については、開催場所の使用が夜間に限られることから実現していない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市には毎回運営推進会議録を提出。意見書開示のお願い、包括支援センターには毎回運営推進会議で助言をいただいている。	市からはメールでの連絡を求められているため、普段はメールでのやり取りを中心に、連絡と報告を密に行なっている。運営推進会議の議事録の提出は、市担当課へ直接持参し、担当者顔を合わせるように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夕方の戸締り以外施錠する事なく、本人の動きを止めないで受け入れる支援をし、一人ひとりの位置確認に意識する努力をしている。また 離床センサー、見守りロボットを使用している。勉強会をしている。	事業として身体拘束委員会を年に4回開催し、また毎月の勉強会は身体拘束をテーマに取り上げ、職員の理解を深めるよう取り組んでいる。職員は利用者本人の気持ちに寄り添い支援することに努めており、必要に応じて介護機器も活用しながら、見守りを中心とした身体拘束をしないケアを実践している。	

事業所名 : グループホーム サンパーク笑う門 (そらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ご本人を受け入れる事を基本にしている。周辺症状の表れに注意し内出血等あれば原因を探りケアの見直しをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全てにおいて受け入れることから始める基本姿勢や理念にそって振り返りをして支援している。研修や勉強会で職員間共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には目的、入院した場合、看取り、入居料金、面会等説明。それぞれのご家族が心配、不安な点を時間をかけてその都度説明している。料金変更があった場合には重要事項説明書にて同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に意見投書箱を置いている。面会、サービス計画書の説明時にご家族の要望を確認している。利用者様の一般状態の変化として現れる不安に対する対応に気配りしている。	言葉で上手く伝えることが出来ない利用者からは仕草などから思いを受け止めている。これが食べたいなど、利用者の要望は食事に関するものが多い。毎月のお便りに利用者の近況を一言添えて、家族の意見や要望を募っている。介護計画の説明時に家族の要望を確認し、利用者のサービスに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のケアカンファレンス及び連絡ノートを活用してサービス計画、業務、勤務表等に関して意見交換をしている。業務日誌の記入者は何でも記入して社内で見れるようになっている。	管理者は職員と1on1(個人面談)の機会を設け、職員の意見や要望、提案の把握に努めている。職員から新入職員が入る時点できちんと教えられるようになりたいとの提案があり、職員の話合いのもと業務の統一化を図った。職場には、私的なことも相談できる雰囲気がある。	日々の業務において問題意識を持ちながら、今後とも何でも話せる職場風土を維持されることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務の役割をもち責任をもって行えるようにしている。 勤務が平等になるように心がけている。		

事業所名 : グループホーム サンパーク笑う門 (そらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護経験や研修歴を考慮し、希望を聞きながら研修をうけれるようにしている。 また 社内研修等に参加するように促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平常時はグループホーム協会例会、ブロック会の研修に参加して情報交換をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネやご家族から情報をもらい、ご本人の生活歴を知る事から始めている。 家族様と電話で話す機会を増やしていただき、一諸に関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の利用者様と家族の関係を理解し相談、申込み、契約、面会時など話を傾聴することから始めている。電話で様子を伝えたり、家族には都合の良い時間に面会に来ていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報や見学時の様子からどのような支援が必要かを考えながら、見守りをし出来ない事、不安に思っている事を職員間で共有して支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の生活リズムに合わせてコミュニケーションをとりながら、一諸に出来る事を探し一諸に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約時に家族と一諸に支えたいと説明し、相談しながら対応している。病院の受診を家族にもお願いをしている。寝具、衣類の衣替えを家族にもお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	平常時はお盆、お正月、お彼岸など外出をしているが、現在コロナ禍で制限しているため、電話をする回数を増やしている。	コロナ禍により面会の来訪者が激減したが、最近では散歩中に近所の方から声をかけられたりすることがある。両ユニットを通じ、友人や親戚などに手紙を書く利用者が3名いる。昔の趣味の集まりを覚えていて手紙に書いている方もおり、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に見守りして変化に注意している。出来る事興味がある事に職員が一諸に関わっている。良い関係作りが出来るように寄り添っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去になっても家族からの相談に対応している。ケアマネジャーとも情報交換し関係を継続している。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の変化に注意して、表現できない思いをくみとり関わりを持ちながら表情を観察して対応している。	現在は会話が困難な利用者であっても、以前話していた内容から本人の思いを汲み取るように努めている。職員は利用者に関する日頃の気づきについて、「カンファレンスファイル」に記入して職員間での共有に取り組み、利用者の思いに沿った介護に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報はご家族やケアマネより得ている。様子に変化があった時などは家族に確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムシートや健康チェックシートをもちいて変化等を常に把握に努め、日々モニタリングしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で情報交換し課題の確認をしている。アセスメント・モニタリング用紙に職員が書き込みやすいようにしている。	アセスメントは、職員全員が表に書き込めるようにしている。本人と家族から聞き取りした上で話し合いを行い介護計画を作成している。本人の日々の様子を職員が「ケアカンファレンスファイル」に書き込みし共有している。モニタリングは家族、関係機関の意見を参考にして6か月ごとに実施している。	モニタリングについては、成果や取り組み状況についても本人や家族、関係機関と共有できるよう、書式をはじめ情報共有の仕方の工夫が期待されます。

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム サンパーク笑う門 (そらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活リズムシートや健康チェックシートで職員間でモニタリングし、共有して計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の身体状況に合わせて福祉用具を提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩に出かけ近所の方と話をしたり、買い物に近所のスーパーに出かける事もある。町内のリング畑に花見ドライブに出かける。コロナ禍で自粛中。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も利用者様 ご家族が望む主治医に受診をお願いし連携をとっているが、受診が困難になった方は希望により訪問診療に切り替え、支援をしている。	本人や家族の希望を尊重し、入居後も在宅時からのかかりつけ医を受診している利用者は、両ユニットで3名いる。他の利用者も、希望する医療機関に受診できるよう家族の協力を得ている。事業所として医療機関に情報提供を行い、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し月4回程度、健康相談や緊急時電話をして相談する事もある。看護師とは健康状態を共有し連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した場合には、情報提供し生活の様子、認知症状を伝えている。連絡を多くとり安心できるようにしている。相談員との連携に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に医療連携体制、看取りに関する指針を説明している。利用者様や家族様とは会話の中から確認してサービス計画にのせている。	契約時に看取りに関する指針を説明し、希望を確認している。話し合いは本人や家族の状態を見て複数回行うよう努めている。介護計画書に重度化や終末期に対応する支援内容を盛り込み、家族と共有している。自然な看取りに向けて医療従事者と連携し、本人と家族に寄り添った支援を行っている。16年間入居した利用者を看取るなど、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間計画で通報訓練やAEDの使い方など訓練をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回デイサービスと合同避難訓練を行い消防署の指導を受けている。セCOMの火災センサー作動で地域住民に連絡が行くようになっている。水害時訓練も行っている。	隣接のデイサービス事業所と合同で年3回の避難訓練を行なっている。今年は2月と8月に近隣火災を想定して行い、水害を想定した訓練は近々予定している。職員間の緊急連絡網がうまく繋がらなかった課題はあるが、火災センサーが作動した際には、近隣に居住する地域住民に連絡が繋がるようになっている。施設が災害で使用できなくなった場合の代替施設について、地域住民と確認している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	否定する事なく受け入れて ご本人の意向を確認しながら支援している。	利用者への声掛けは「さん」で統一し、ご本人の人格を尊重した言葉がけを徹底するよう努めている。居室入室時のノックと笑顔の声掛けを励行している。排泄や入浴支援の際の異性介護については充分気をつけ、ご本人の羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話や動作から気持ちをくみ取り、傾聴して生活が整うように、また出来るだけ自ら発する事が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間、起床時間をある程度ご本人の希望にしている。散歩したい、ドライブしたいという ご本人の願いを聞き支援している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム サンパーク笑う門 (そらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせて ご自分で選ぶ事が出来るようにしている。個々の生活習慣に合わせて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、片付けを一諸に行っている。役割がもてるよう支援している。	献立は、利用者の何気ない会話の中から季節を感じる食材を見つけて料理に加えるようにしている。食事準備の際には、野菜の皮剥きや調味、盛り付け、テーブル拭き等、利用者が意欲を持ったり、できることで役割を持てるよう支援している。利用者と一緒に作った干し柿は特に好評であった。	食事を楽しむことができるように細部まで配慮されております。今後も効率化の視点を加えつつ、これまで取り組まれてきた日常の営みを継続されるよう期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事についてはご本人にとって食べやすい形 大きさ 硬さに配慮しバランスがとれるよう支援している。 水分も容器を変えたり 好みの物を用意し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後3回の歯磨きや口腔内の観察をし必要に応じて介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間排泄を確認して、出来ないところを支援している。	両ユニット合わせて、声掛けや見守りは必要だが排泄が自立している利用者は3名、車椅子の使用等で全介助を要する利用者は5名、となっている。職員は24時間排泄の確認をし、一人一人の排泄パターンの把握に努めている。職員間で話し合い、ご本人の状態にあった排泄に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	不穏、腹痛、食欲等を観察して主治医・訪問看護と相談してコントロールしている。予防は散歩や運動と水分摂取量の維持に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	予定はあるが個々の都合に合わせている。ご本人の思いを聞き希望に添うよう努めている。	週2回を基本にゆっくりと時間をかけて入浴している。体調などで時間をずらしたり、翌日に変えることで気持ちよく入浴出来ることもある。車椅子の使用等によりシャワー浴を利用している利用者が両ユニット合わせて8名いるが、今春にはだいちユニットに、その後にそらユニットにもリフト浴を導入する予定である。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム サンパーク笑う門 (そらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	強制はしないが昼寝を促している。季節に合わせた寝具の調節をしている。アイスノンや湯たんぽを使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を全員で確認し共有している。変化があった時には、主治医や家族、職員で検討し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族から情報をいただき、出来る事、好きな事を確認し役割りもてるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の会話から何をしたいか、何を求めているかを感じとる努力をしている。散歩したり、ドライブに出かける事もある。	外出制限も少しずつ平常に戻りつつあり、家族一緒に近くのお店に行ったり、美容院に行く方もいる。春はドライブで都南中央公園での花見、秋は紅葉狩りを楽しんでいる。本人の希望に沿った外出が出来るように家族と協力しながら支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム管理以外にご本人の希望があった時には家族様了解の上で自己管理としている。ヤクルトさんが週1度訪問しているので、ご本人に選んでいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が書ける方には書き方の支援をしたり、電話では会話がスムーズにできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓にシェードを設置し光を和らげ、利用者様と一緒に作成した貼り絵を飾って季節を感じれるようにしている。	リビングは天窓から陽が入り、時にまぶしくシェードで遮る程に明るく開放感がある。壁には利用者と共に作成した季節を題材としたちぎり絵の作品が飾られている。食卓テーブルとは別にリビングテーブルと椅子があり、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができ、ゆったりとした空間となるよう配慮されている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム サンパーク笑う門 (そらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置き自由に座って会話をしたり、お茶を飲めるような空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、使いなれた物、家具の準備している。ベッドの位置、家具の位置もご家族 ご本人と相談している。	ベッド、クローゼット、洗面台があり、エアコンとパネルヒーターが設置されている。利用者は自宅から持参した使い慣れた家具や仏壇などを持ち込んでいる。壁には家族との写真や好みの飾り、カレンダーなどが飾られ、その人らしい空間としている。また、歌が好きな看取りの方の居室には音楽を流し、穏やかに過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関にイスを置き、一人でも靴が履き替えやすいようにし、移動線上に手すりを設置している。		